

10章

【添削課題】

出典：慈恵医科大学・医学部・03年

解答

突然このような手紙を差し上げる無礼をお許し下さい。私は日本に暮らす高校生です。新聞でアヤトさんが亡くなった次第を知り、一言お詫びを申し上げたくペンを執りました。

パレスチナ難民キャンプとイスラエルエリアの間には大きな生活格差があり、またイスラエル軍の暴行が日常化していると聞きます。アヤトさんは、そうした現状を変えようとテロを決意なさったのでしょうか。

ではそれは実を結んだのでしょうか。当初私は、ご自身のみならずラヘルさんをも死に至らしめ、周囲の方々の深い悲嘆と恨みを増幅させたに過ぎない愚かな振る舞いだと思っていました。しかし、彼女の行為が私に強烈な一撃を与えたという事実には思い至り、やっと気付きました。アヤトさんは、問題解決には多くの人々の手を借りる必要があると考え、パレスチナの惨状を世界に訴えるために自らの命を賭けたのだと。

愚かであったのは他人事として問題を放置し続けた私なのです。世界がもっと早く手をさしのべていたならばアヤトさんとラヘルさんは亡くならずに済んだのです。どうぞ、私たちの無知と無関心をお許し下さい。

悲劇を繰り返さないために自分に何ができるか、何をなすべきか、私は模索を始めています。そのためにアヤトさん、ラヘルさんの助言が欲しい、やはり彼女たちには生きていて欲しかった。生きて出会いたい思いを交わしたかったと、今痛切に感じています。

解説

二〇〇四年五月、イラクで日本人ジャーナリストらがテロで殺され、サウジアラビアでは十数カ国の民間人五十人近くがテロによ

り死傷したと伝えられた。二〇〇一年九月の米国同時多発テロと、その後の米・英を中心とした力によるテロ封じ込め策は、イラクの戦火拡大と世界各地でのテロを誘発し、出口の見えない状況を作り出している。

「テロ」は、最近の世界情勢を語る上で避けて通れない言葉となってしまった。それが、21世紀のキーワードとならぬよう、私たち一人ひとりが真剣に取り組むべき時を迎えている。

こうした状況を反映し入試小論文においてもテロを扱った課題が出題されており、人の生と死に深く関わる学問領域である医学・看護学系でも出題されている。また、国境なき医師団やAMDAなど、テロや戦火が止まない中東やアフガニスタンに自らの意志で赴き医療活動に従事している人々を視野に入れて、医師の国際貢献を問う問題も複数の大学で出題されている。

本課題では、21世紀初頭の世界の現状を踏まえ、私たちとは全く異なる生き方（死に方）を選んだ（選ばざるを得なかった）少女について考えることが求められている。アヤトとラヘル二人の少女の死をあなたはどうか受け止めるのか、それはなぜか、背景にある現代世界の実相を見つめ、自分自身とのつながりにも思いを至らせじつくりと考え書いてみよう。

1 設問要求

① 課題文の読解

② 自爆テロの実行者アヤトの母親に宛て、手紙文を書くこと。

③ 五〇〇字以上六〇〇字以内でまとめること。

2 課題文の概要

課題文は、そのタイトルからもわかるように、自爆テロで死亡したアヤトとラヘルという二人の少女に関する取材レポートである。一方、本問で問われているのは、「自爆テロの実行者アヤトの母親に宛て手紙文を書くこと」だ。以上から、二人の少女に関する情報、アヤトが自爆テロを実行した背景や理由、そのプロセスと結果・周囲に及ぼした影響（アヤトとラヘルそれぞれの母の受け止め方など）、手紙文作成のために必要な情報を課題文から読みとっていくとよいだろう。

① アヤトとラヘル

▽アヤト…自爆テロを実行した十八歳のパレスチナ難民キャンプ出身の少女。
▽ラヘル…十七歳のイスラエル人少女、政治に無関心。自爆テロも他人事という遊びたい盛りの女の子。夕飯のお使いに出かけたスーパーマーケットの入り口で自爆テロに巻き込まれ、体中に爆弾の破片が突き刺さり死亡。

②自爆テロの背景

イスラエルという国の特殊性…華やかな店が立ち並ぶイスラエル・エリアと瓦礫と化したジェニン難民キャンプなどがあるパレスチナ・エリアが隣接。

▽アヤトが住んでいたパレスチナ・エリア…銃を抱えた兵士（イスラエル軍の兵士）たちがうろついている。

▽ラヘルが住んでいたイスラエル・エリア…物質的には豊かだが、自爆テロの恐怖が日常化。

③アヤトが自爆テロに至る原因（事情）

アヤトの兄がイスラエル軍の銃弾により負傷。ハマスのメンバーであるといこ3人は殺害され、隣に住む幼なじみの青年が赤ちゃんを抱いているところを狙撃され死亡。

④それぞれの母の受け止め方

▽アヤトの母…「自爆テロは納得できない。でもアヤトは今、神の元で祝福されていると思う」。

▽ラヘル之母…「何故私の娘なの？」「責任を取るべきなのは、シャロンやアラファトでしょ。ラヘルはイタリア旅行を楽しみに勉強していた少女。それが全く意味のない死に方をしたのよ」と涙を流した。

⑤筆者のコメント…2人の少女の悲しすぎる運命に言葉を失った。

3 答案作成へのアプローチ

基本的には、課題文を読み自分が感じ考えたことを書いていけばよい。但し、本課題はあくまで小論文として出題されているし、

問われている主題は重い内容ゆえ、感想文的なレベルでの文章では評価は期待できない。課題文の問題提起をきっちり受け止め、その背景や原因あるいは意味を分析し、それを踏まえて自分の見解を打ち出すというように、感想を思考として深め論理的に整理し、問題を探っていくという姿勢を心がけよう。また、課題文で扱われている主題は、私たちの日常とはかけ離れているように感じられるため、ともすると第三者的・部外者の観点からの考察に傾く恐れもある。事件の当事者である「アヤトの母親」に送る手紙であることを意識し、出題側（大学側）がなぜこうした主題を提示したのか、その狙いをよく考えて論述に取り組むことが重要である。

(1) 出題側の狙いを読む

本課題が扱っているのは「死と生」という医学部小論文類出のテーマであり、まず問われるのは書き手の「死生観」である。但し、それだけではない。課題文が、「自爆テロ」の結果、加害者・被害者という関係になってしまった君たちと同年代の二人の少女の運命を描いていること、また、アヤトの母に向けての手紙文という形式での論述作成が要求されていることから、自分とは異なる他者の立場や内面に思いを遣る力、それを支える共感力や問題発見能力、さらには時事問題への関心の所在を見たいというくらいもあると考えられる。以上を踏まえて論述作成に取り組んでいこう。

(2) 論述に取り組む

問われているのはアヤトの母親に向けての手紙文の作成である。但し、小論文として出題されている以上、主題に関する考察を行い、自分の見解とその理由を明確に打ち出すことが必要となる。ゆえに、まずは、課題文を検証し、アヤトの母に対し自分が最も伝えたいこと（自分の見解）を定め、その理由（主題の分析・考察）を整理し、手紙文の形式に沿ってまとめていくという方向で構想を立てるとよいだろう。

① 課題文を検証する

前項で整理した課題文のポイントを踏まえ、アヤトの行為を検証・考察していく作業である。そのための観点設定は各自の自由任由に任されるが、迷った場合には、行為の動機（背景や原因をもとにして動機の意味や価値を探る）、実行方法あるいはプロセス（問題点の解明）、結果（その吟味）、筆者のコメント（その検討）という観点毎に、検証・考察を行っていくとよい。検証を

行う際の判断の一つの軸となるのは倫理的基準だろう。平和の実現・あらゆる人々の幸福・生命の尊厳など幾つかの観点があるだろうが、大事なのはアヤトたちが置かれている現実を踏まえ、当事者意識を持つて考えることである。

検証を行う際には、まずは、課題文中の情報を活用していけばよい。ただし、現代人の一人として、主題の背景をなすパレスチナ問題に関する基本的知識（高校までの教科学習、新聞報道等により得られる範囲の知識）は持つていて欲しいし、確かな知識があれば検証・考察もいやすくなる。以下にパレスチナ問題の概要を略述しておくので、迷った人は参照しよう。

「パレスチナ問題」

パレスチナとは地中海の東岸に面するレバノン・シリア・ヨルダン・エジプトさらにシナイ半島に囲まれた地域。ただしその地域の大部分にはイスラエルが建国され、現在はガザ地区とヨルダン川西岸という、ごく一部の地域にパレスチナ自治政府が展開。

問題の発端は、第一次大戦後中東での覇権をめざしたイギリスの「三枚舌」外交。フランスとの間では、戦後の中東を両国で分割する密約（サイクス・ピコ協定）を結びながら、アラブ人にはパレスチナを含むアラブ国家の独立を認め（フセイン・マクマホン書簡）、ユダヤ人に対してもパレスチナでの「民族的郷土」の建設を支援する約束をした（バルフォア宣言）。一方、ユダヤ人は、十九世紀末以降、特にヨーロッパにおける反ユダヤ主義の高まりの中、自分たちの国の建国を目指してパレスチナへの移住を開始（シオニズム運動）。一九三〇年代以後のナチスによるユダヤ人の迫害がこの移住に拍車をかけた。六百万人のユダヤ人が虐殺されたホロコーストの悲劇もパレスチナ問題の背景と言われている。

第二次世界大戦末、パレスチナ人とユダヤ人の衝突とイギリスを標的とするテロの頻発に手を焼いたイギリスは一九四七年、問題解決を国連に委ねた。同年十一月、国連はパレスチナをパレスチナ人とユダヤ人の国家に分割し、エルサレムを国際管理下におくというパレスチナ分割決議を採択。人口で30%、土地所有面積で6%弱のユダヤ人に57%の地域を割り当てる決議をユダヤ人は受け入れ、アラブ人は拒否。一九四七年五月十四日、イギリス軍が撤退するとユダヤ人は当事者間の合意がないまま、イスラエルの建国を一方的に宣言、分割決議に反対するアラブ諸国がイスラエルに攻め込み第一次中東戦争開始。結果、イスラエルは国連の決めたユダヤ人の領土をはるかに超えて侵略、追い出されたパレスチナ人七十万人（百万人とも）が難民となった。その後一九六七年の第三次中東戦争でイスラエルは全パレスチナを支配、シリア領グラン高原とエジプトのシナイ半島も占領。国連安保理は占領地からの撤退をうたった決議二四二号を採択したが、イスラエルは受け入れず、一九八二年にシナイ半島は返還されたも

の、基本的に占領状態が続いている。

【PLO（パレスチナ解放機構）】

一九六四年に設立。パレスチナ人の民族自決権を承認した一九七四年の国連総会以来、全パレスチナ人を代表する、国際的に唯一承認されている組織。国会にあたるPNC（パレスチナ国民議会）と内閣にあたる執行委員会をもち、傘下には様々なグループを抱えている。アラファト氏は当時のファタハ（パレスチナ解放運動）の指導者。

設立当初、PLOはイスラエル抹殺の立場をとり、武力闘争を展開、一部戦闘員による無差別テロはパレスチナ問題解決を妨げる最大の障害の一つとなった。イスラエルも一九八二年にPLOが首都ベイルートに本部をおくレバノンを侵攻、その際、イスラエルが後押しするレバノン民兵（ファランジスト）がパレスチナ難民キャンプを襲撃、数千人に上るパレスチナ人を虐殺。

【テロと報復の連鎖】

一九八〇年代後半、ガザと西岸地区のパレスチナ住民は、投石による抵抗運動（インティファダ）を開始。その後、一九八八年国連の分割決議に基づくパレスチナ国家独立宣言。国連安保理決議二四二号の受入れ、イスラエルの生存権の承認、テロ行為の放棄を表明、二国家共存路線への転換を見せ、一九九三年、ノルウェーの仲介で、PLOとイスラエルはこの争いを交渉によって解決することで合意（オスロ合意）。一九九四年五月四日、パレスチナ自治政府が発足。しかしその後は、イスラエルに巨額の軍事援助を行う米国が仲介の主導権を握ったこと、イスラエルが入植地の拡大政策をとったこと、オスロ合意を認めない過激派によるテロなどにより事態は悪化。一九九九年五月、オスロ合意で決められた最終地位交渉の五年の期限が切れ、その後、テロと報復の連鎖が続いている。

【ハマス】

ハマスは、イスラエルを地上から抹殺してパレスチナにイスラム共和国を樹立することを目標とし、基本的には反アラファト・反PLOの組織。その創設者・指導者ヤシン師はイスラエルにより二〇〇四年三月に暗殺された。西欧諸国からテロリスト集団と呼ばれるハマスだが、イスラム教に基づく教育・医療など社会活動に熱心で、貧困者支援用の基金を設けたり、学校や診療所や病

院などの公共施設を作ったりしている。だが一方で、利敵行為やスパイの摘発、矯正・処罰、テロ実行のための情報収集などを任務とする「情報部門」、麻薬、売春、不当利得を取り締まる「浄化部門」、「イズ・アディン・アル・カッサム隊」と称され、自爆テロなどを実行する「軍事部門」を持ち、裏の活動を行っていると言われる。

② 検証結果に基づき、自分の基本的見解と理由を整理する。

基本的見解とは、日本に住むアヤトと同年代の自分が、アヤトの母親に最も伝えたいことである。どのような見解を打ち出してもかまわないが、少なくとも、アヤトの母親が心を開いてくれる手紙を目指したい。心を開いてもらうには、見解と同時にその理由をじっくりと考えていくことが大切だろう。彼女らが置かれている厳しい現実、自分自身とのつながりなどをよく考え、(1)で整理した出題側のねらいを念頭に置いて、説得力ある論拠を打ち出して欲しい。

③ 手紙文として自分の見解とその理由をまとめていく。

一般に手紙文は、頭語（背景など）や季節の挨拶・安否などを含む前文、それに続く主文、結びの挨拶・結語（敬具など）を含む末文という構成を成す。こうした構成に従って書いてもちろんよいが、本課題で問われているのは小論文の内容を手紙という形で示すことであり、字数も制限されている。また、異文化に暮らす面識のない相手に宛てる文章ということから、必ずしも定型にこだわる必要はない。但し、以下の四点については留意しておこう。

- (1) 自己紹介…面識のない相手に出す手紙である。自分が日本という国に暮らす、アヤトと同年代の若者であることぐらいは示しておくべきだろう。
- (2) 目的…自分は何のために手紙を書くのか、目的が相手にはっきりと伝わるような内容を織り込むことも大事である。
- (3) 自分の基本的見解とその理由
- (4) 表現の工夫…相手を不快にさせないよう、言葉を選び書いていこう。



会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--